

落ち込む市税収入

実質的な赤字予算を編成した小樽市。今月は厳しい状況にある市の収入のうち、市税の概要をお知らせします。

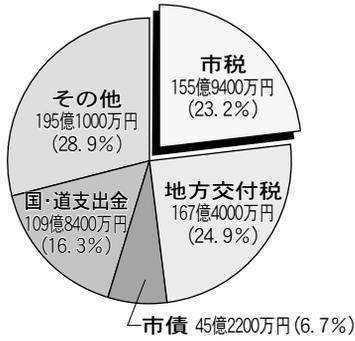
市税は貴重な財源

市税は、市がさまざまな住民サービスを行うために欠くことのできない財源で、平成14年度の一般会計決算では、歳入総額673億5000万円のうち155億9400万円(23.2%)となっています。市税には、個人や法人の所得などに対して課税する市民税、土地や建物に対して課税する固定資産税と都市計画税、ほかにも軽自動車税、たばこ税、入湯税などがあります。

市税収入の状況

14年度の市税収入は、ピーク時の9年度と比較して約15億円も落ち込んでいます。その要因は、個人市民税では、人口減に伴う納税義務者の減少や減税の影響、個人所得の減少であり、法人市民税では、企業収益の悪化に伴う減少があげられます。一方、固定資産税は、住宅建設や民間の設備投資により増加しています。

14年度歳入(総額 673億5000万円)



市税収入額の比較

	9年度	14年度	差し引き	増減率(%)
個人市民税	59億6600万円	43億9600万円	△15億7000万円	△26.3
法人市民税	17億8900万円	13億2000万円	△4億6900万円	△27.2
固定資産税	66億4000万円	71億9000万円	5億5000万円	8.3
その他	26億9500万円	27億6000万円	1100万円	0.4
計	170億9000万円	155億9400万円	△14億9600万円	△8.8

◆財政課 ☎ 4111 内線 231234 へどうぞ。

次回は、市税とともに重要な財源である、地方交付税についてお知らせします。

道内他都市との比較

人口一人当たりの市税納入額を道内の他都市と比較すると、右のグラフのとおりになります。小樽市は道内34市の平均とほぼ同額ですが、人口10万人以上の都市との比較では、江別市に次いで低い額となっています。

1人当たり市税納入額(14年度)

